

2015年度(平成27年度)

第42回 全国海外子女教育・国際理解教育研究協議大会(東京大会)

「外国につながる児童が在籍する通常の学級での学習支援の在り方」
～JSLカリキュラムを活かした学習指導の実践～



長野県北安曇郡小谷村立小谷小学校 川尻 年輝
2015年8月21日(金)

©T.Kawajiri 2015

本日 お伝えしたいこと

- I JSLカリキュラムについての概要と授業の
組み立て方
- II JSLカリキュラムを活かした授業の実際
- III まとめ
～さらなる授業のユニバーサルデザイン化をめざして～

©T.Kawajiri 2015

★当該校の“外国につながる児童”の
在籍状況と学級の課題

〈日本語指導教室〉 2クラス 在籍者数約30名

- ・サバイバル日本語
- ・日本語の基礎
- ・技能別日本語
- ・教科の補習
- ・教科内容と日本語の統合型の学習

©T.Kawajiri 2015

★ 当該校の“外国につながる児童”の
在籍状況

〈通

〈

②

に在籍

学級

このような
経験はあり
ませんか？

★日常会話ができるのに教科学習になると…

★学習理解に困難を示す日本の子どもたち…

©T.Kawajiri 2015

だれもがわかる授業の必然性



外国につながる児童や特別な支援が必要な児童をはじめとする、学級の皆が意欲的に学習に参加でき、わかる授業とは…

学習に参加する日本語の力をつけていくことが大切なのは…

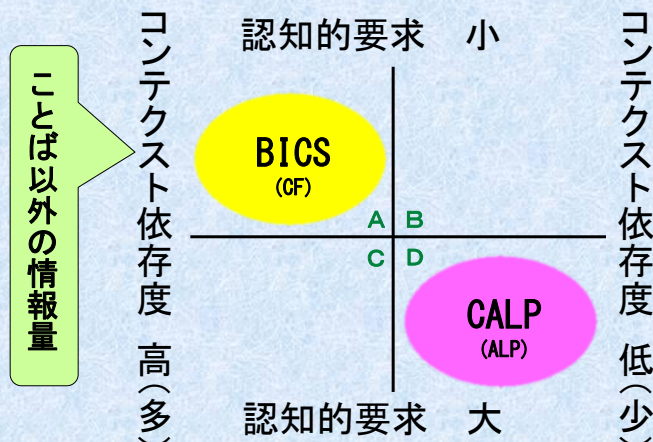


JSLカリキュラムを活かした授業づくり

©T.Kawajiri 2015

言語能力発達モデル (Cummins & Swain 1986)

BICS…生活場面で必要とされる言語能力
* 年齢相当になるまでに1～2年



CALP…学習場面で必要とされる言語能力
* 年齢相当になるまでに5～7年(以上)

©T.Kawajiri 2015

★日本語を学びつつ、日本語で学ぶ 子どもたちの課題



BICSとCALPの習得にかかる時間差

学習に参加するための日本語の力を育てる
＋
日本語面で支援をしながら授業に参加させる指導を展開する

⇒ J S Lカリキュラム

©T.Kawajiri 2015

I JSLカリキュラムについて

J S Lカリキュラム開発の歴史

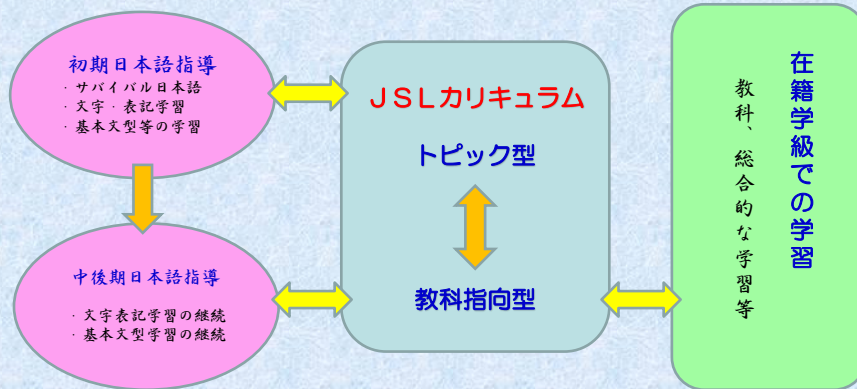
(文部科学省)

- ①平成13年度(2001)から
「学校教育におけるJSLカリキュラム」の開発開始
- ②平成15年(2003)7月
小学校における「トピック型」・「教科志向型(国語・算数・理科・社会科)」
JSLカリキュラムについて最終報告 公表
- ③平成19年(2007)3月
中学校編として国語科、社会科、数学科、理科、英語科
(教科志向型)の5教科公表

©T.Kawajiri 2015

I JSLカリキュラムについて

JSLカリキュラムの位置づけ



©T.Kawajiri 2015

JSLカリキュラムの概要

(1) JSLカリキュラムとは

①「第二言語としての日本語」(Japanese as a Second Language)

→ 学習者が母語を獲得した後、日本語が使われる環境の中で生活し、日本語を二番目の言語として獲得していくこと。

②日本語を母語としない子どものための学習支援

→ 日本語力が十分でない子どもに「日本語で学んだり、関わったりする力」をつけること。特に「学習に参加する力」を育成することをねらいとする。

→ 授業を通して、教科の内容理解と日本語の習得を図ることを目指す。

©T.Kawajiri 2015

JSLカリキュラムの概要

(2) 子どもたちと利用者

①対象とする子どもたち

- ・日本語の基礎的な学習が終わって日常的な会話がある程度できるようになった子どもを想定して作られている。

②利用者

- ・教員。（日本語指導担当教員、学級担任等）

③実施の場

- ・学校の取り出しの日本語教室。しかし、限定されるものではなく、さまざまな日本語教育の現場で活用できる。通常学級においても可能。

©T.Kawajiri 2015

JSLカリキュラムの概要

(3) 「JSLカリキュラム」の4つの特徴

①学習活動の組み立て方

- ・問題解決的な活動を基本に据え、体験や学習したことを日本語でまとめたり表現したりする。

②具体物や直接体験を支えにした学習活動

- ・日本語が十分でない子どもたちにとり、具体物や直接体験から学ぶことが最適である。

③学習活動の基本単位化

- ・学習活動を基本単位に分け、その基本単位ごとに多様な日本語の表現（AU=Activity Unit）とバリエーションがある。⇒日本語の話型

④「授業づくり」のツールの提供

- ・学習項目を一定の順序性を基に配列するのではなく、個々の子どもの実態に応じて支援者が自分で授業をつくる。

©T.Kawajiri 2015

ＪＳＬカリキュラムの概要

(4) 2つのタイプのカリキュラム

①トピック型ＪＳＬカリキュラム

・「トピック型」は、対象となる子どもたちの興味関心に沿ってトピックを設定し、そのトピックをめぐって、「体験→探求→発信」という流れで授業を組む。こうした授業への参加によって子どもたちが「教科学習の基本となる活動に日本語で参加する力（学ぶ力）」を高めることをねらいとしている。

②教科志向型ＪＳＬカリキュラム

・「教科志向型」は、「国語科」「算数科」「理科」「社会科」の「各教科の学習に日本語で参加できる力」を育むことをねらいとしている。各教科には、特有の学習の仕方があるので、教科の知識や概念を獲得するためには、各教科の典型的な学習の仕方を経験することが大切である。

©T.Kawajiri 2015

トピック型ＪＳＬカリキュラム

学習内容の3つのポイント

- ・各教科に共通した学ぶ力の育成を目指し、具体物や直接体験をとおして、先生や友だちと関わって学んでいく。
- ・子どもたちの実態把握を行い、特定の教科の枠組みにしばられない子どもたちの興味関心を中心にしたテーマを選び、それを基に学習の課題を設定。
(学校行事・学級活動はおすすめ)
- ・授業の流れとして、「体験→探求→発信」(3つの活動)という段階を踏んで進めていく。

©T.Kawajiri 2015

3つの学習活動について

体験

- ・子どもたちが今体験していることや、かつて体験したことに具体的で明確な形を与える局面



©T.Kawajiri 2015

3つの学習活動について

探求

- ・具体化された体験を土台にしながら、他の子どもたちや教師・指導者との議論や、情報の探索などによって、トピックについての理解を深めていく局面



©T.Kawajiri 2015

3つの学習活動について

発信

- ・ 探求の成果を他者に向けて発信していく局面



©T.Kawajiri 2015

授業の組み立て方

実態を把握

子どもの興味・関心
に注目して

- ・ 小学校1年生
- ・ ブラジルからやってきて4年目。
- ・ 休み時間には日本の友だちと遊ぶなど、日常会話はできるが、授業になると言葉が難しそう。
- ・ ダンスが好きで活発。活動することが好きそう。
- ・ 運動会「つなひき」は初めて。

トピックの決定

子どもの興味・関心
からの展開

Ex

「つなひき」

- ・ 興味を持って運動会練習に参加してほしい。
- ・ つなひきで勝つための作戦を考えたい。
- ・ つなひきで使われることば「用意・つな・引け」などの意味を覚えてもらいたい。
- ・ つなを実際にさわり興味関心を深めたい。

©T.Kawajiri 2015

構想を練る

体験・探求・発信の
大まかな流れを作る

「体験」

- ・ 運動会でのつなひきの動画を見る。
- ・ 竹ひきを行う。

「探求」

- ・ つなひきの動画を見たり、実際のつなになれたりして、つなひきとたけひきの似ていることや違いを考える。

「発信」

- ・ つなひきで勝つ方法をグループごと発表する。

授業の組立

授業の内容に合わせて
AUカードを選ぶ

「体験」

AU：知識を確認する

「つなひきを知っていますか。」

「探求」

AU：比較して考える

「つなひきと竹ひきを比べて、似ていることは何ですか。」

「発信」

AU：考えたことを表現する

「グループで考えた方法とその理由を教えてください。」

AU(Activity Unit)について

学習活動の各局面を構成する活動単位 (Activity Unit(AU))ごとに、それぞれの活動を行うために必要な日本語表現のバリエーションを組み合わせた「AUカード」により、教師による子どもの実態に合わせた授業づくりを支援する。



★授業において、よく使われている指示
や思考・活動をうながす言葉、話型

©T.Kawajiri 2015

特別活動 学習指導案（修正本時案）
題材名 文科省JSELカリキュラムトピック型授業
「わくわくドキドキうんどうかい」
平成○○年○月○日（水）3校時・AM10:55～11:40

A-2知識を確認する②

T: ～について知っていますか。

S: はい、知っています。／いいえ、知りません。

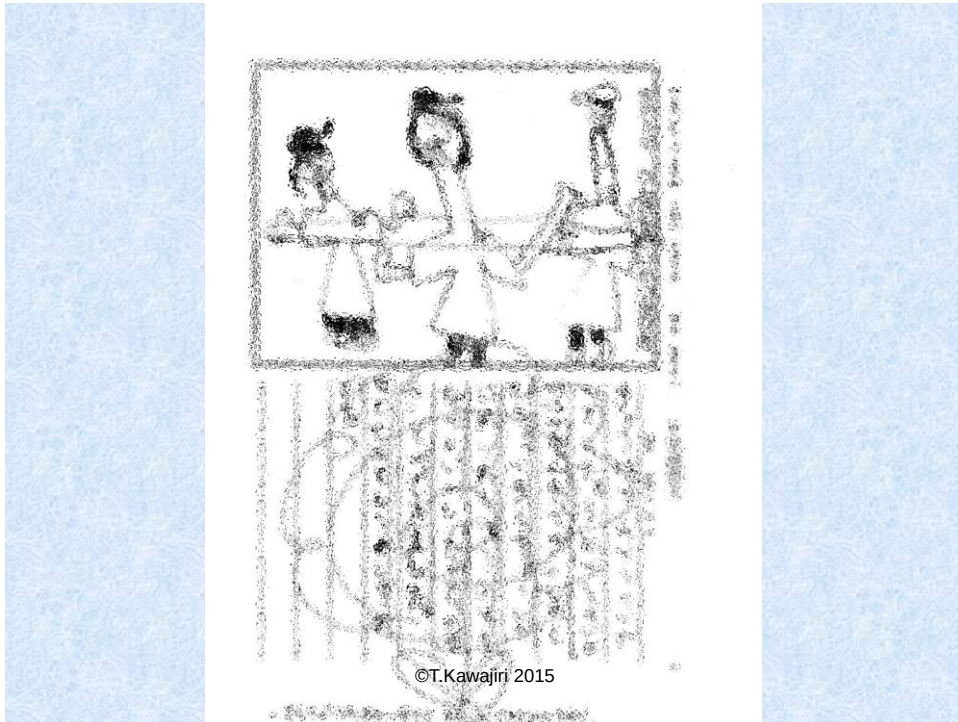
を見る。	のビデオを見てみましょう。	考えやすくするために、つなひきの様子をワークマンの機軸を活用し動画で見る。
5. 実物につなひき種を引き合 う。	4. 観察する① T: 実物を見ましたか？ S: はい、見ました。 T: はい、見てみましょう。 S: はい、見てみましょう。	・「ひく」という言葉を明確にするために、画引 きに依って「たけひき」 体験を行わせる。 ・意図的指名をし、実際に 行わせる。
5. 感想発表を行う。	4. 3. 観察する② T: たけひき、楽しかったです か。 S: はい、とても楽しかった	・たけひきの楽しさを確認 し、つなひきへの興味を 深めるために、感想発表 を行う。

T: つなひきを知っていますか。

S: はい、知っています。／いいえ、知りません。

T: つなひきとたけひきを比べ て、違いは何ですか。 S: ちがうことは～です。	らかにするために、たけ ひきと比べながら、大勢 で行うことに意図を込 めていく。
--	---

©T.Kawajiri 2015



「教科志向型JSLカリキュラム」

- 子どもの実態に合わせて、その授業の教科の目標と日本語の目標をはっきりとさせること
- 授業の大まかな流れとそこでどのような活動を行うのか工夫すること
- 授業の内容を理解させるための学習上の手立て
- 支援（具体物の提示など）を考慮すること
- 子どもに合った日本語の支援を考慮すること
- 子どもに表現させるための支援をすること

©T.Kawajiri 2015

「JSLカリキュラムの授業づくり」

- 通常の授業の流れでわかるかどうか見極め、スモールステップで、きめ細やかな授業づくりを心がける。
- 授業の背景知識がない場合が多いので、言葉の負荷が大きくなりがち。実物、映像、写真、絵、図表などを用い、導入場面で意欲を持たせる等の授業の組み立て方の工夫が大切。
- 子どもの学習理解や表現を促すためのわかりやすい日本語の支援（リライト教材・AUカード等）を工夫する。
- 授業中の言葉遣いや教材の提示の仕方にも工夫する。

©T.Kawajiri 2015

（丁寧な日本語表現）

リライト教材について

リライト教材とは…

「教科の学習に入りやすくするために、教科書本文を子どもの日本語に対応させて書き換えた教材」

（光元・岡本2006・2012）『外国人児童・生徒を教えるためのリライト教材／ふくろう出版』
『外国人・特別支援・児童・生徒を教えるためのリライト教材 改訂版』

リライト教材の種類

- ①口頭リライト教材
- ②要約リライト教材
- ③あらすじリライト教材
- ④全文リライト教材
- ⑤ポイント教材
- ⑥注釈リライト教材

原文

水筒に入っている水のかさを調べたら、1Lでした。

リライト文

水とうに 入っている 水の かさを 調べたら、1L でした。

©T.Kawajiri 2015

Ⅱ JSLカリキュラムを活かした授業の実際

小学校１年生 国語科

単元名 「じどう車ずかん」をつくろう！

教材文 『じどうしゃくらべ』

〈対象児童〉

出身国：フィリピン国

滞在期間：６年間

〈日本語力〉

友人との会話や日常での会話はできる。授業中の質問に対して、自分なりの答えを出していけることもあるが、日本語の的確な表現で言い表すことが難しい場面が多い。

特に国語や算数の文章問題において指示語がどこを指しているのかわからなかったり、文の意味そのものがイメージされにくかったりする場合が多い。

©T.Kawajiri 2015

本時の目標設定

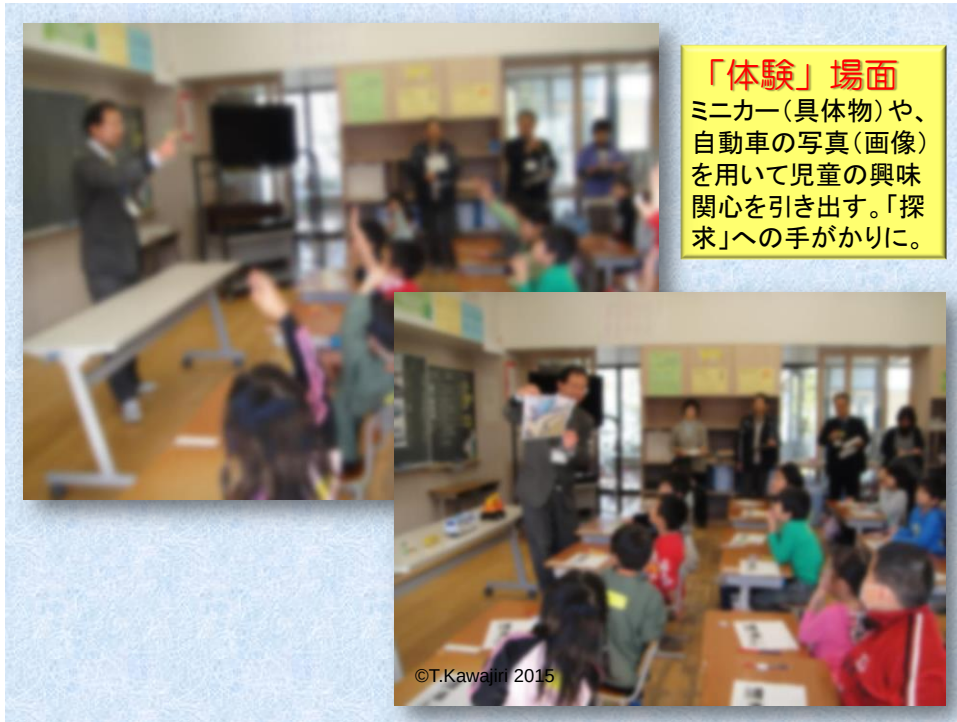
【国語科】

- ・音読はできるが読解の苦手な子どもたちが、じどう車クイズやバスの乗車経験を伝えたり、じどう車カードにまとめたりするを通してバスやじょうよう車の「しごと」と「つくり」について読み取り発表することができる。（学級全体）

【日本語】

- ・ＡＵを用いた発問を通して、バスやじょうよう車の「しごと」と「つくり」について読み取り発表することができる。（対象児）

©T.Kawajiri 2015





本授業で作成した学習カード



AUカード
 (発信)

バスやじょうゆう車の
 ところがわかりました。

写真や図を使い、
ライトした学習カード

©T.Kawajiri 2015

授業の実際（「体験」場面で使用した映像教材）



Ⅲ まとめ

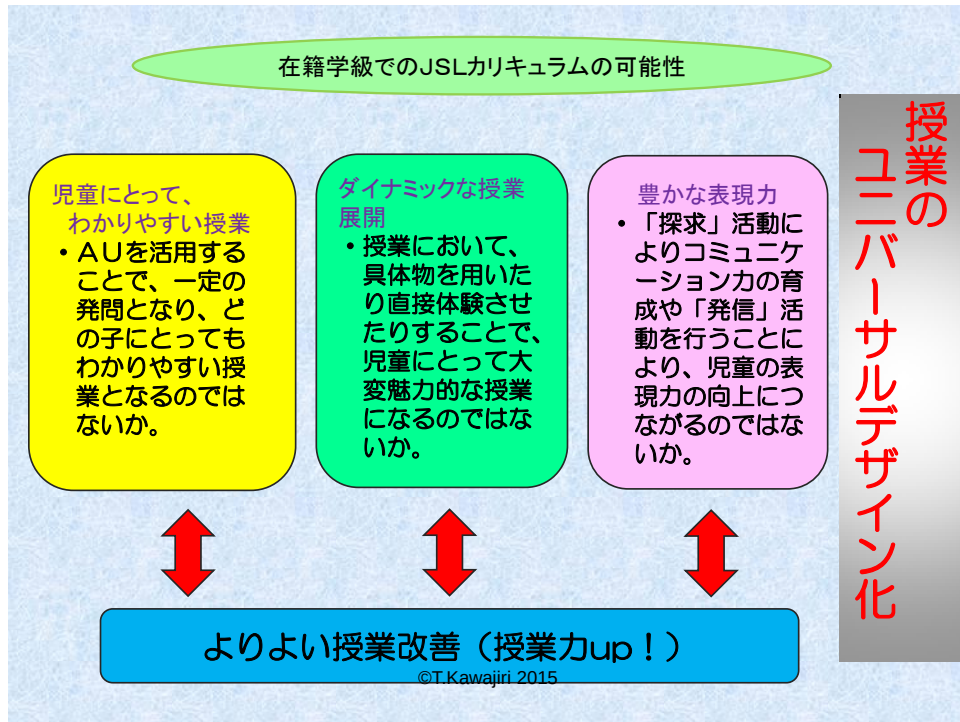
成果

- 実物や映像、写真などの視覚支援を行うことで、外国につながる児童が大変興味を持って学習を進めることができた。また、特別の支援が必要な児童に対しても有効で温かな学習カリキュラムではないかと思われること。
- ＡＵカードを用いたことは児童が考えをまとめていく上で有効であり、自己表現の向上につながること。
- 学習カードをできるだけ簡易（リライト）したことで、どの子にもわかりやすく学習を進めていくことができること。

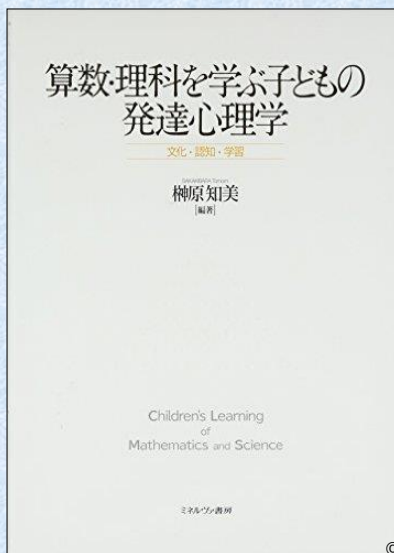


在籍学級でのJSLカリキュラムの可能性

©T.Kawajiri 2015



東京学芸大学国際センター 榎原知美 准教授
『算数・理科を学ぶ子どもの発達心理学』 編著者



第10章
「多文化的背景をもつ小学生のための
算数・理科授業」

市川 昭彦
(群馬県大泉町立北小学校 教諭)

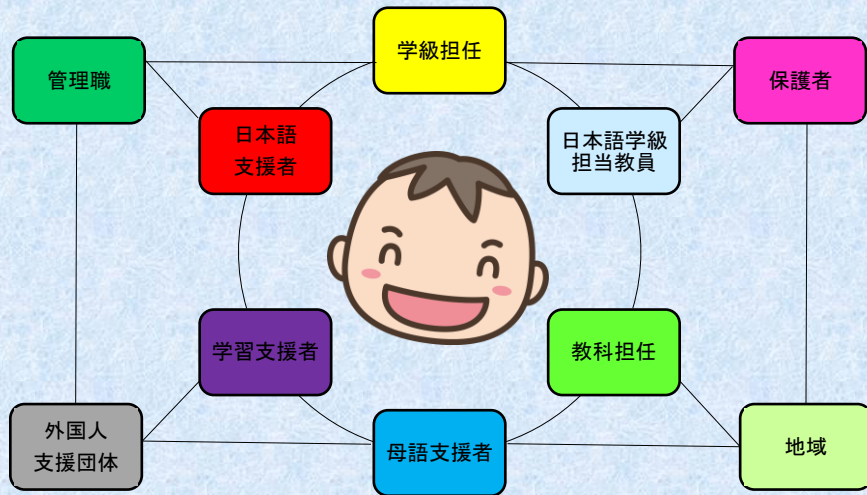


さまざまな背景をもつ子どもが
参加できる授業への転換の必要性

(ユニバーサルデザインとしての
JSLカリキュラム)

©T.Kawajiri 2015

今後は…



ネットワークで支援を！

参考資料

- ・『小学校JSLカリキュラム「解説」』（株）スリーエーネットワーク／佐藤郡衛ほか
- ・『小学校「JSL国語科」の授業作り』（株）スリーエーネットワーク／佐藤郡衛 監修
- ・『文化間を移動する子どもたちの学び 教育コミュニティの創造に向けて』
ひつじ書房／齋藤ひろみ・佐藤郡衛 編
- ・『外国人・特別支援・児童・生徒を教えるためのリライト教材 改訂版』
心くろう出版／光元聰江・岡本淑明 編
- ・『バイリンガル教育の方法 増補改訂版』アルク／中島 和子
- ・『外国人児童生徒のための支援ガイドブック 子どもたちのライフコースによりそって』
にほんごの凡人社／齋藤ひろみ・今澤悌・内田紀子・花島健司
- ・『算数・理科を学ぶ子どもの発達心理学』ミネルヴァ書房／榊原知美 市川昭彦
- ・『授業のユニバーサルデザイン入門』東洋館出版社／小貫 悟・桂 聖
- ・『イングランドにおける英語を第一言語としない生徒への教育 一般教員への情報提供
のあり方をめぐって』／菅原雅枝 日英教育研究フォーラム17号（2013.8.31）
- ・平成27年度東京学芸大学国際教育センター第2回JSL研修会ppt資料／菅原雅枝
- ・『ユネスコ国際母語デー記念学術講演会報告書』／真嶋潤子 大阪大学世界言語研究
センター論集 第6号（2011年）
- ・東京学芸大学 国際教育センター『JSLカリキュラム活用支援サイトこどものにほんご』
<http://crie.ugakugei.ac.jp/nihongo/>
- ・三重県教育委員会『日本語指導の手引き④一教科学習につながる教材と指導方法一』
<http://www.pref.mie.lg.jp/GAKOKYO/HP/tebiki/tebiki4/mokuzi4.htm>
- ・文科省HP『学校教育におけるJSLカリキュラムの開発について』（最終報告）
小学校編 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001/008.htm

©T.Kawajiri 2015